



福崎町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原
1038の12
電話：0790-22-1000

企画展

松岡映丘画稿展 〜映丘の描く春〜

4月28日(土)より映丘画稿展が開催されています。今回、展示されている作品の一つに映丘の名前の由来にちなんだものがあります。『記念館新聞』第38号で紹介しましたように、「映丘」という雅号は兄・井上通泰がつけたものです。『日本書紀』の一節に「二つの丘、二つの谷の間に映り」とあります。ここから、通泰は本名の輝夫にちなんで「映丘」と名付けました。

この「二つの丘、二つの谷」を描いた作品を展示します。

映丘という人物の一端を知ること、より作品が身近に感じられると思います。ぜひ、ご覧ください。

- ☆会期 4月28日(土)〜5月31日(木)
- ☆会場 記念館2階展示室
- ☆入館料 無料

銀の馬車道のあれやこれの

辻川界限にて、銀の馬車道の舗装工事が進められています。

アスファルトを高熱で軟らかくし、石畳の形にした鉄筋で型押しをしています。また、舗装の色は、車道を灰色、歩道を土色としています。そして、この道の3か所に銀の馬車道のロゴマークがあしらわれています。

このように、少しずつ新たな変化が起こっています。今後、どのような「道」になっていくのでしょうか。ぜひ、足元に注目してみてください。



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

- ☆開館時間 9時〜16時30分 (入館は16時まで)
- ☆休館日 月曜、祝日の翌日 12月28日〜1月4日
- ☆入館料 無料



銀の馬車道のロゴマーク

名作著書紹介 故郷七十年を 読む

『故郷七十年』では、國男が福崎で過ごした日々を記しています。

明治8年に福崎で生まれた國男は、明治20年に福崎を後にします。しかし、福崎での経験は國男にとって貴重なものでした。

そこで、『故郷七十年』を読んでいき、國男が福崎でどのような経験をされたのか。そして、國男は、どのような思いを抱いていたのかをみていきたいと思えます。

日本刺繍「生家」 が寄贈される!

4月12日に福田にお住いの小西貞子さんがつくられた日本刺繍の「生家」が、当館に寄贈されました。

昨年は、柳田國男が亡くなり、50年となりました。しかも記念館が町立になったことから、何か町の役に立てばという思いを込めて制作してくださったとのことです。



先月号でお伝えしましたように、映丘が描いた「平清盛」の画稿の修復に着手いたしました。

映丘の画稿は、約千百点以上あります。記念館では、随時画稿の修復を行なっていき、その成果を示していきたいと思っています。



一针、一针縫いこまれて表現された生家からは、生活の息吹が感じられます。今後、展示していきたいと考えております。また、お知らせいたします。

